



Kyo.Prot.N. 38/2021

京都教区の皆さまへ

2021年聖霊降臨 司教メッセージ

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、聖霊降臨を迎えます。政府から三回目となる緊急事態宣言が発出され、京都教区も京都府、奈良県、滋賀県、三重県の一部で、ミサ休止が続いていますが、今日、いただく聖霊の賜物を受け、コロナ禍でも、元気を出しましょう。聖霊が、健康と生活に不安をかかえるすべての人々に、神の息吹きを注ぎ、いのちを支え、怖れと不安に打ち勝つ力を与えてくださいますように、祈りましょう。

そして、特に、聖霊に希望を与えてくださるよう祈りましょう。パウロは言います。「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満ちし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう」（ローマ 15・13）。今年の年頭書簡『コロナ時代を生きる信仰』で、希望の徳について考えようと呼びかけました。「人は将来に希望を持つことではじめて、今の時を意味あることとして受けとめ、意欲的に生きることができます。明日を信じることで、今日を生き抜くのです。コロナ感染の完全な終息が見えない状況で、神の計らいを信じる、希望の徳について考えましょう。人は苦しみの意味をすぐに掴むことはできません。苦しみを経験する人自身が、神に問いかけながら、時間をかけて苦しみの意義を見出していくのです。苦しみが始まった時点で、あるいはその最中でも、いつか必ず神からの慰めと生きる力が与えられると信じるのが、キリスト者の希望です。そして、苦しみを乗り越えるたびに、キリスト者の信仰は強くなっていきます。」

聖霊降臨は、教会の誕生日です。教会の保護者である聖ヨセフに祈りましょう。ミサ休止が続く中で、京都教区のすべての信者が、聖霊の賜物を豊かに受けて、いのりの内に、共同体のきずなと一致を守ることができますように。そして、弁護者、慰め主である聖霊を受けて、困窮している人、拒絶されている人、貧しい人、苦しんでいる人に寄り添い、励まし、ささやかでも支えることができますように。

2021年5月23日 聖霊降臨の主日

カトリック京都司教

✙ パウロ 大塚喜直